



No. 114

June 1996

甲虫ニュース COLEOPTERISTS' NEWS

日本産エンマムシ上科概説 II^{註1}

—ホソエンマムシ亜科, コブエンマムシ亜科, セスジエンマムシ亜科,
アナアキエンマムシ亜科—

大原昌宏

1-3-1. ホソエンマムシ亜科 Niponiinae

ホソエンマムシ亜科は *Niponius* 1 属からなり、世界に 22 種、日本からは 5 種が知られている。「頭部に一對の角をもつ」「大顎が頭部に垂直につく」の形質状態により他の亜科から区別される。頭部と前胸の接続状態と前胸の構造が単純なことから、最も原始的な亜科に位置付けられている。東洋、オーストラリアに分布。

ホソエンマムシ属 *Niponius* LEWIS, 1885

キクイムシの天敵として知られる。頭部の角と尾節のくぼみは、樹皮下トンネル内での生活になんらかの機能を持っていると思われるが、わかっていない。角とくぼみは凹凸で合う気もするので、タンデムに並んだ時に角で前の個体の尾節を押すなどの行動があるのかもしれない。[尾節のくぼみ構造は樹

皮下で生活するヒメナガエンマムシ族の種にもみられ、交尾前に♂が触角で穴を触る行動をとる。] *N. itoi* CHŪJŌ, 1955 は未検討。

1(2) 体長 4.8-5.5 mm. 前胸背に一對のくぼみをもつ。前尾節のくぼみは 4 つ。……ホソエンマムシ

2(1) 体長 3.5-4.7 mm. 前胸背にくぼみはない。

3(4) 頭部の角は短く太い。前尾節のくぼみはない。
……………ツノブトホソエンマムシ

4(3) 頭部の角は長く細い。前尾節には数個のくぼみをもつ。

5(6) 頭部の角は前方外側に突き出る。鞘翅は全体に点刻列をそなえる。前尾節のくぼみは 4 つ。触角を受け入れる溝は、頭部腹面の目の後ろに一對と後半部に縦長の一對をもつ。
……………フシツノホソエンマムシ

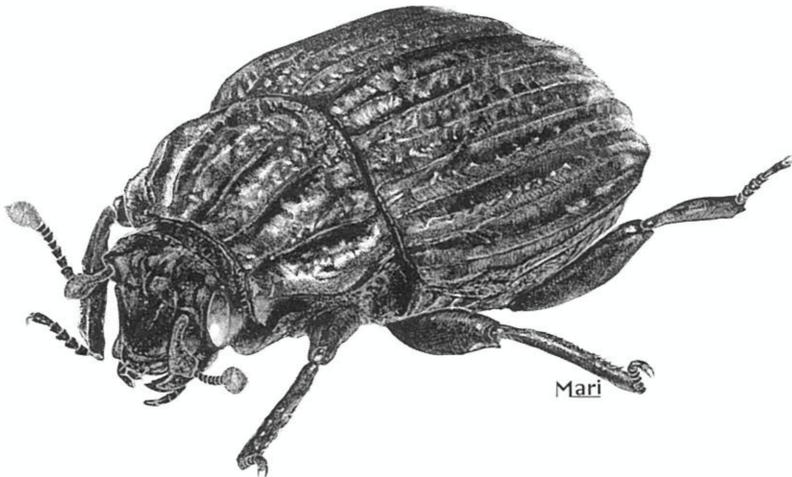


図1 シナノセスジエンマムシ *Onthophilus silvae* LEWIS

^{註1} M. OHARA, Taxonomic note on the superfamily Histeroidea of Japan, II.

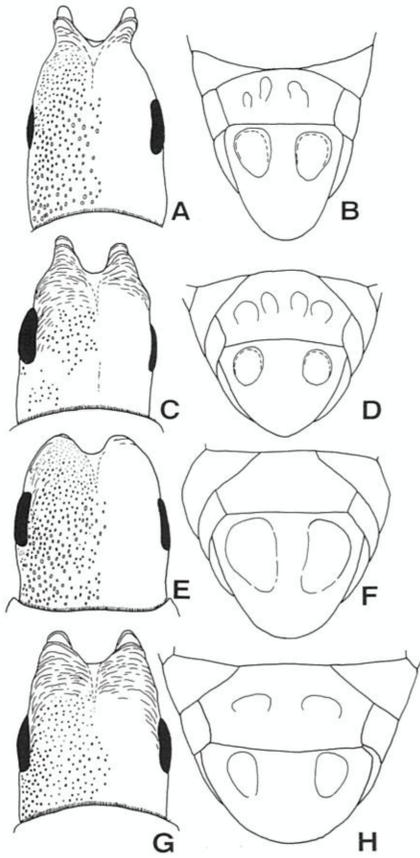


図2 ホソエンマムシ属. A-B: フシツノホソエンマムシ, C-D: ホソエンマムシ, E-F: ツノブトホソエンマムシ, G-H: ヒメホソエンマムシ. A, C, E, G: 頭部背面, B, D, F, H: 前尾節と尾節. (ÔHARA, 1994 の電顕写真をトレース).

6(5) 頭部の角は平行に突き出る。鞘翅は会合線に沿って1点刻列をそなえる。その他は不明瞭。前尾節のくぼみは2つまたは4つ。触角を受け入れる溝は、目の後ろの1対のみ。……ヒメホソエンマムシ
フシツノホソエンマムシ (図2A, B)

Niponius furcatus LEWIS, 1885

図説 H: 219; ÔHARA, 1994: 66 [再記載].

標本も少なく, 稀. ♂交尾器は未検討. 分布: 四国, 九州, 南西諸島 (奄美大島, 徳之島).
ホソエンマムシ (図2C, D)

Niponius impressicollis LEWIS, 1885

図説 N: 67; 図説 H: 219; ÔHARA, 1994: 68 [再記載, ♂交尾器].

前胸背の中央両側の凹陷で他種と区別される。分布: 北海道, 本州, 四国, 九州, 台湾, ウスリー. [ÔHARA (1994) で China としたものは台湾の間違ひ].

ツノブトホソエンマムシ (図2E, F)

Niponius obtusiceps LEWIS, 1885

図説 H: 220; 林, 1986: 32, pl. 10 [幼虫]; ÔHARA, 1994: 72 [再記載].

稀. ♂交尾器は未検討. 分布: 北海道, 本州, 九州.

ヒメホソエンマムシ (図2G, H)

Niponius osorioceps LEWIS, 1885

図説 N: 67; 図説 H: 219; ÔHARA, 1994: 74 [再記載, ♂交尾器].

分布: 北海道, 本州, 九州, ウスリー.

1-3-2. コブエンマムシ亜科 Chlamydopsinae

世界から9属約50種が知られ, 大半の属はオーストラリア・タスマニア・ニューギニア (5属), 中南米 (2属) から記録されており, 東洋からは *Ceratohistes* (インド) と *Eucurtiopsis* (台湾・日本) の2属が知られる。日本には最近記載された2種が分布。多くの種はアリの巣内で発見されている。ÔHARA (1994), LAWRENCE & NEWTON (1995: 816) で指摘しているとおおり, 本亜科の系統的な位置はよくわからない。私は前胸の構造からセスジエンマムシ亜科の近くに置いたが, 調べた標本も少なく, さらに検討が必要である。

コブエンマムシ属

Eucurtiopsis SILVESTRI, 1926

SILVESTRI (1926) が1属1種 *mirabilis* として台湾から記載。日本から2種が加わり, 現在3種が知られる。鞘翅外側に切れ目を持ち, その内側に毛を密生させる。この特異な特徴で他と区別される。

1(2) 体長 (前胸前端から鞘翅後端) 1.79-1.88 mm. 頭部に縦隆起はもたない。前胸背中央の隆起はよく発達する。鞘翅外側縁部の隆起は著しい。

.....アリノスコブエンマムシ

2(1) 体長 (頭部先端から鞘翅後端) 1.58 mm. 頭部中央に2縦隆起を持つ。前胸背中央の隆起は弱い。鞘翅外側縁部の隆起は弱い。

.....オキナワコブエンマムシ

アリノスコブエンマムシ (図3A)

Eucurtiopsis ohtanii (K. SAWADA, 1994)

Boreochlamydus ohtanii K. SAWADA, 1994: 359 [♂交尾器].*Eucurtiopsis* [sic] *ohtanii*: ÔHARA, 1994: 78 [再記載].*Eucurtiopsis ohtanii*: NISHIKAWA, 1995: 258 [擬態].*Eucurtiopsis* sp.: NISHIKAWA & MARUYAMA, 1993: 230, 246, pl. 13, fig. 2 [全体図].

本種はすでに十数年前に中根猛彦博士が石田正明氏より標本を譲り受けており, 私のもとに標本を置き共著の記載準備をしていた。西川正明氏も記載準備をしていたが (西川・丸山, 1993), 私の学位論文に含める予定を伝え, かち合うのを避けた。ところが, まったく独立に関西でも澤田高平博士が準備されていたようで記載がなされた。私の学位論文の発表が遅れ, 中根博士, 西川氏にはご迷惑をかけた。さて, アズマオオズアリ *Pheidole fervida* の樹皮下

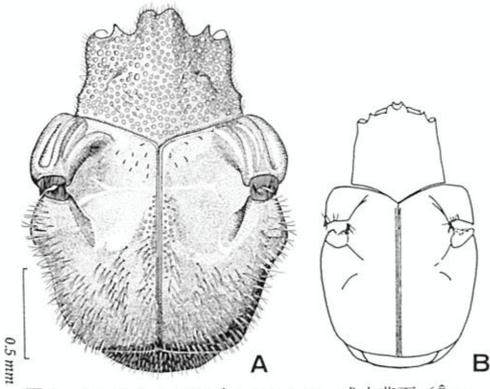


図3 A: アリノスコブエンマムシ, 成虫背面 (ÔHARA, 1994 より), B: オキナワコブエンマムシ, 同 (NISHIKAWA, 1995 より).

コロニーより採集される。本種は兵アリの頭部に擬態しているらしい。分布: 本州 (埼玉, 神奈川, 静岡, 三重), 九州 (大分)。

オキナワコブエンマムシ (図3B)

Eucurtiopsis hiranoi NISHIKAWA, 1995

NISHIKAWA, 1995: 259.

交尾器未検討。おそらく土壌リターから採集されたもの。分布: 南西諸島 (沖縄本島)。

1-3-3. セスジエンマムシ亜科 *Onthophilinae*

世界に7属約70種が知られる。日本からは2属8種。VIENNA (1974) は, 鞘翅, 前胸背に顕著な縦隆起を持つ (派生的) ことにより, 本亜科をアナアキ

エンマムシ亜科から分離・独立した。しかし他の形態状態はアナアキエンマムシ亜科と似るため, 両亜科はきわめて近縁な関係にあると思われる。後翅脈の状態はエンマムシ科のなかでもきわめて祖先的。

属までの検索

1(2) 鞘翅表面に毛はない。…セスジエンマムシ属
2(1) 鞘翅表面に毛をそなえる。

……………ケセスジエンマムシ属
セスジエンマムシ属

Onthophilus LEACH, 1817

ÔHARA & NAKANE, 1986: 1-15.

世界に33種。日本産の7種については1986年に一応のまとめをしている。図説Hに *ordinarius*, *aonoi* 以外は図示されている。一般に植物腐敗物, 動物腐敗物, 糞, 土壌リターなどに生息。ユーラシア, 北アメリカ, オーストラリアに分布。

1(2) 前胸背には8本の縦隆起がある。体長は2.50-2.65 mm。……………シナノセスジエンマムシ

2(1) 前胸背は4または6本の隆起をもつ。

3(8) 鞘翅第3隆起^{註2}の基部端は, 鞘翅前縁直前で深い凹陷となる。

4(5) 前胸背第3隆起は前方と後方の2つに分離する。体長3.60-4.68 mm。……………オオセスジエンマムシ

5(4) 前胸背第3隆起は欠く, あるいは後方にのみある。

^{註2} エンマムシ科の場合, 習慣として鞘翅条溝・隆起を外側から数える。これは条溝がしばしば会合部側から消失することが理由である。記載を読む際には注意をされたい。

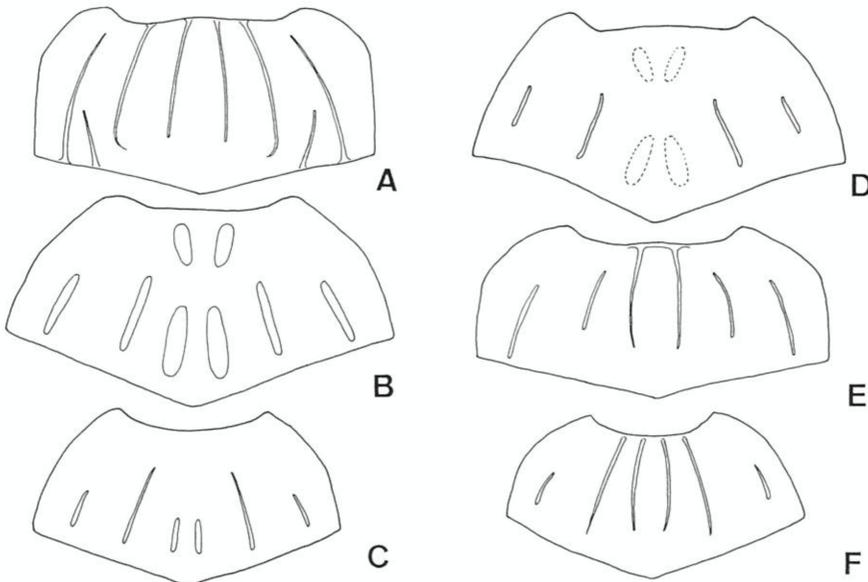


図4 セスジエンマムシ属, 成虫前胸背. A: シナノセスジエンマムシ, B: オオセスジエンマムシ, C: コセスジエンマムシ, D: ニセスジエンマムシ, E: エゾセスジエンマムシ, F: キノセスジエンマムシ (ÔHARA & NAKANE, 1986 より).

- 6(7) 前胸背第3隆起をもつ。体長 2.50–3.02 mm.
コセスジエンマムシ
 7(6) 前胸背第3隆起を欠く。体長 3.28–3.38 mm.
ニセスジエンマムシ
 8(3) 鞘翅第3隆起の基部端は鞘翅前縁に達する。
 9(10) 体長は 2.5 mm より大きい (2.86–3.54 mm)。
 鞘翅隆起は時折とぎれる。
エゾセスジエンマムシ
 10(9) 体長は 2.5mm 以下。鞘翅隆起は完全。
 11(12) 前尾節には 3 隆起がある。体長 1.82–2.34
 mm.キノコセスジエンマムシ
 12(11) 前尾節には 1 隆起。体長 2 mm (after
 Adachi, 1930).カミヤキノコセスジエンマムシ
 シナノセスジエンマムシ (図 1, 4A)

***Onthophilus silvae* LEWIS, 1884**

図説 H: 225; ÔHARA & NAKANE, 1986: 5 [電頭全体図, ♂交尾器]; ÔHARA, 1994: 83.

ククロサアリ *Lasius fuliginosus* の巣から採集される (平野, 1986 に採集法など詳しい)。分布: 北海道 (札幌, 倶知安), 本州 (長野, 神奈川)。

ニセスジエンマムシ (図 4D)

***Onthophilus aonoi* M. ÔHARA et NAKANE, 1986**

ÔHARA & NAKANE, 1986: 6 [全体図, ♂交尾器]; 平野, 1988: 41; ÔHARA, 1994: 84.

稀。分布: 本州 (神奈川, 岡山)。

オオセスジエンマムシ (図 4B)

***Onthophilus ostreatus* LEWIS, 1879**

図説 N: 68; 図説 H: 226; ÔHARA & NAKANE, 1986: 5 [電頭全体図, ♂交尾器]; ÔHARA, 1994: 84.

植物腐敗物, 牛糞から採集される。分布: 本州, 四国, 九州, 中国, 台湾。

コセスジエンマムシ (図 4C)

***Onthophilus niponensis* LEWIS, 1907**

図説 N: 68; 図説 H: 226; ÔHARA & NAKANE, 1986: 6 [電頭全体図, ♂交尾器]; ÔHARA, 1994: 80.

分布: 本州, 九州。

エゾセスジエンマムシ (図 4E)

***Onthophilus ordinarius* LEWIS, 1879**

ÔHARA & NAKANE, 1986: 9 [全体図, ♂交尾器]; ÔHARA, 1994: 84.

北海道ではニワトリ腐肉トラップで 5, 6, 7, 9 月に採集された。分布: 北海道 (野幌, 札幌, 小樽), ロシア (沿海州, イルクーツク, ノボシビルスク), キノコセスジエンマムシ (図 4F)

***Onthophilus flavicornis* LEWIS, 1884**

図説 N: 68; 図説 H: 226; ÔHARA & NAKANE, 1986: 9 [電頭全体図, ♂交尾器]; ÔHARA, 1994: 84.

植物腐敗物や土壌中から採集される。分布: 北海道, 本州, 四国, 九州。

カミヤキノコセスジエンマムシ *Onthophilus kamiyai* Adachi, 1930 はタイプ標本が大戦で消失し, 安達綱光氏によるネオタイプが東京国立科学博物館にある。詳細は未検討。

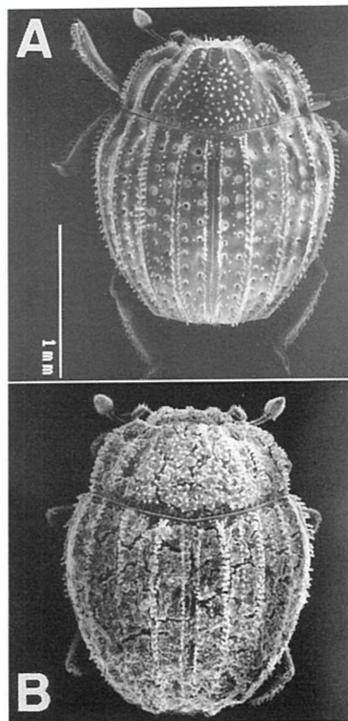


図5 チビケセスジエンマムシ。A: 成虫背面, B: 泥状物質で覆われている背面 (ÔHARA, 1994 より)。

ケセスジエンマムシ属

***Epiechinus* LEWIS, 1891**

世界から 32 種, 日本からは 1 種 *arboreus* が知られる。アフリカ, ユーラシア, オーストラリアに分布。

チビケセスジエンマムシ (図 5)

***Epiechinus arboreus* (LEWIS, 1884)**

図説 N: 68; 図説 H: 226; ÔHARA, 1994: 85 [再記載, 電頭全体図, ♂交尾器]。

きわめて稀。キクイムシ (*Tomicus* ?) のギャラリーに生息。体表面に泥をかぶっている。体長 1.8–2.1 mm。中・後胸腹板の凹陷の形態から日本産他種と区別される。分布: 本州 (奈良春日山: 他の産地は知られていないようである)。

1–3–4. アナアキエンマムシ亜科 **Tribalinae**

世界に 10 属約 180 種。日本からは 2 種の記録がある。触角をしまう前胸背の穴は, のど板により腹面から閉じられ, 前角腹面の前方に開いた穴となっている。上唇は刺毛をそなえる。脛節は単純で歯状に広がらない。

アナアキエンマムシ属

***Epiurus* ERICHSON, 1834**

鞘翅にほぼ完全な深い条溝をそなえる種が多い。約 80 種が知られており, 東洋, アメリカ, ヨーロッパ

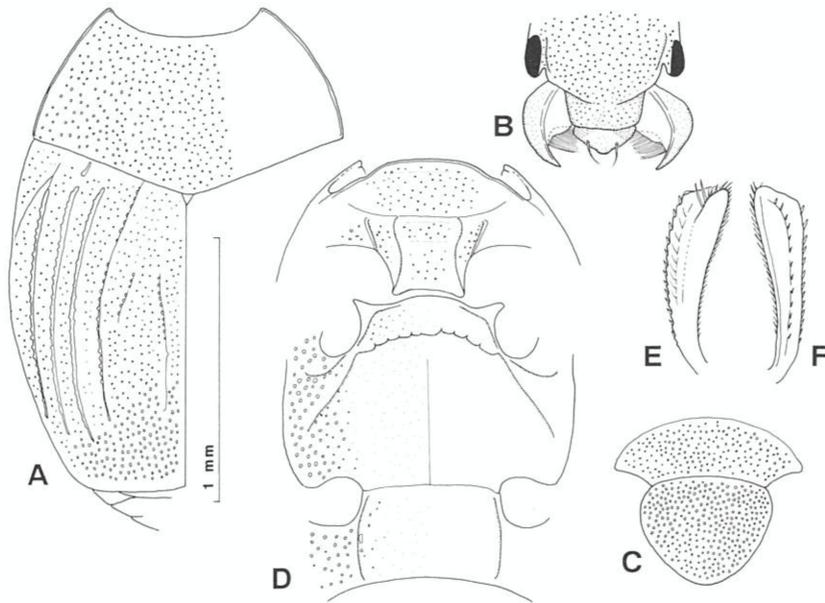


図6 アマミアナアキエンmamushi, 成虫。A: 前胸背と左鞘翅, B: 頭部背面, C: 前尾節と尾節, D: 前胸・中胸・後胸腹板, E: 左前脛節背面, F: 同腹面 (ÔHARA, 1994より)。

バに分布。熱帯域に多い。

アマミアナアキエンmamushi (図6)

Epiurus uenoi M. ÔHARA, 1994

ÔHARA, 1994: 80 [全体図, ♂交尾器]。

生態は不明。体長(前胸前端から鞘翅後端) 1.83 mm。黒色で光沢あり。脚, 触角, 口器は褐色。前頭条溝は両側に短くあり前方は消失; 前頭は目の前へ中央からななめ後方に隆起する。前胸背緑条は側方で完全, 前方は欠く [ÔHARA (1994: fig. 50) の前方完全は間違い]; 背面は細かい点刻を一様にもち, 側方でやや粗くなる。鞘翅第 1, 2, 3 背条は基部 2/3 から 3/4 にあり, 第 4 は第 3 よりやや短く, 第 5 は中央基部 1/6 に短くあり, 会合 (第 6) 条は中央 1/3 に弱くある; 背面は一様に点刻され, 後方で粗く密になる。前脛節は細かい外歯をもつ。種小名は上野輝久氏に献名。分布: 南西諸島 (奄美大島)。 *Epiurus lucus* LEWIS, 1884 は「奈良春日の宮」から記載されたが以来記録がない。標本未検討。

概説 I の訂正 (甲虫ニュース第 113 号)

p4. 左段 33 行目: 「アナアキエンmamushi」の下線部をとる; p4. 左注 2: 「粉らわしい」を「粉」に; p4. 右 16: (1986) を (1985) に。

参考文献 (I で挙げたものは*を付け略した)

*林 長閑 (HAYASHI, N.) (1985).
平野幸彦 (HIRANO, Y.) (1986). シナノセスジエンmamushi.
月刊むし, (184): 1.

平野幸彦 (1988). *Onthophilus aonoi* M. ÔHARA et NAKANE (エンmamushi科) 神奈川県に産す。月刊むし, (206): 41.

*久松定成 (HISAMATSU, S.) (1985). [図説 H].

*LAWRENCE, J., & A. F. JR. NEWTON (1995).

*中根猛彦 (NAKANE, T.) (1963). [図説 N].

NISHIKAWA, M. (西川正明) (1995). Notes on Chlamydopsinine histerid beetles of Japan, with description of a new species. *Elytra, Tokyo*, 23(2): 257-261.

西川正明・丸山 清 (NISHIKAWA, M., & K. MARUYAMA) (1993). 第 10 章 座間市の甲虫目。座間市の動物, 218-308.

*ÔHARA, M. (大原昌宏) (1994).

ÔHARA, M., & T. NAKANE (大原昌宏・中根猛彦) (1986). On the genus *Onthophilus* from Japan (Coleoptera: Histeridae). *Ins. matsum. n.s.*, (35): 1-15.

SAWADA, K. (澤田高平) (1994). New myrmecophilous Coleoptera in Nepal and Japan (Histeridae & Staphylinidae). *Contr. biol. Lab. Kyoto Univ.*, 28: 357-365.

SILVESTRI, F. (1926). Descrizione di due novi generi di Coleotteri mirmecofili dell'Estremo Oriente. *Boll. Lab. Zool. gen. agr. R. Scuola Agric. Portici*, 19: 262-268.

VIENNA, P. (1974). Gli Histeridae paleartici conservati nella Collezione del Museo Civico de Storia Naturale de Milano (Coleoptera). *Atti Soc. ital. Sci. nat. Museo civ. Stor. nat. Milano*, 115 (3/4): 217-284.

(小樽市博物館)

○ヒラテナガクチキ・ヨツモンヒメホソナガクチキを九州から発見

表記の種は、ともに九州から記録のなかったナガクチキムシであるが、大分県黒岳において採集しているのここに記録しておく。報告にあたり、常々懇切丁寧なご指導をいただき、これらの種の同定を頂いた佐々治寛之博士に厚くお礼申し上げる。

(1) *Stolius diversipes* (Pic, 1932) ヒラテナガクチキ

1♀, 27. IX. 1992, 城戸採集・保管; 1♀, 4. X. 1993, 城戸採集・佐々治同定・保管。

いずれも標高900mから1,000m付近のブナ林内。この時期、林内には枯れて丸まったヤブレガサや樹木の葉が見られ、これをピーティングして採集した。今回採集したものはともに雌個体のため、跗節はこん棒状で拡張しない。この種は、SASAJI (1987) によって再記載され、本州から知られていた。水野(1994)は、本種の記録が9月下旬から10月になっていることに着目しているが、今回もその範囲である。近似の *vagelictus* の方は早春と秋に採集することができる。当地では、1989年10月2日、1992年10月28日、1993年10月4日に各1頭採集している。

(2) *Spilotus unnotatus* (Pic, 1937) ヨツモンヒメホソナガクチキ

1頭, 28. V. 1995, 城戸採集・佐々治同定・保管。前種と同じブナ林内で採集した。本州と四国から知られていた。後方紋は完全に消失した二紋型。水野(1994)によればこの型は西日本に多いらしい。

Pseudozilora quadrimaculata NOMURA はシノニム。(福岡県大野城市, 城戸克弥)

○リュウキュウチビジョウカイの西表島からの記録

リュウキュウチビジョウカイ *Maltypus ryukyuanus* WITTMER は竹富島、石垣島産の各1個体に基づいて記載され、その後 WITTMER (1984) により台湾からも報告された。この種に関して近年ほとんど報告が見られず、西表島からも未記録と思われるが、筆者は西表島で採集した本種を所有しているのて記録しておく。

1♂, 沖縄県西表島仲間川林道, 3. IV. 1994; 1♂, 沖縄県西表島ユツ川, 5. IV. 1994; 1♂3♀, 同所, 18. IV. 1995; 4♂1♀, 同所, 20. IV. 1995, いずれも筆者採集。

上記の標本はいずれも林縁、林内の多少日の陰った場所での、主に緑葉のスイーピングにより得られたものである。

末筆ながら御教示を賜った名古屋女子大学の佐藤正孝教授に厚く御礼申し上げます。

参考文献

- 九州大学農学部昆虫学教室・日本野生生物研究センター編, 1989. 日本産昆虫総目録, 1767 pp. 九州大学農学部昆虫学教室, 福岡。
佐藤正孝, 1985. ジョウカイボン科. 原色日本甲虫図鑑

(III), pp. 107-118, pls. 17-19. 保育社, 大阪。

WITTMER, W., 1970. Cantharidae und Malachiidae von den Inseln Okinawa und Ryukyu, gesammelt durch Herren Prof. Dr. Michio Chūjō. *Mem. Fac. Edu. Kagawa Univ.*, 2(192): 22-27.

— 1984. Die Familie Cantharidae (Col.) auf Taiwan (3. Teil). *Ent. Rev. Japan*, 39(2): 141-166, pls. 4-9. (九州大学, 高橋直樹)

○エゾシロモンヒゲナガゾウムシの採集例

エゾシロモンヒゲナガゾウムシ *Gonotropis insignis* MORIMOTO は北海道とサハリンに分布し、北海道では採集例の少ない種である。筆者は本種を上川町大雪湖畔で採集したので報告したい。

湖畔に生えるエゾノカワヤナギの直径2cm程の幹にしがみついているところを採集した。



1頭, 北海道上川郡上川町大雪湖畔, 10. VI. 1995.

参考文献

森本 桂, 1984. 原色日本甲虫図鑑 (IV). 保育社。
妹尾俊男, 1980. 樺太のヒゲナガゾウムシ. 甲虫ニュース, (52): 7. (北海道河西郡, 伊藤勝彦)

○九州本土におけるクロサワツツヒラタムシの記録

クロサワツツヒラタムシ *Ancistria kurosawai* は、上翅に2対の黄紋を持つ美しいツツヒラタムシである。この種は SASAJI (1993) により、種ヶ島、屋久島の標本を基に記載されたが、それ以降の記録はないようである。

筆者は、九州本土産の標本を検査することができたので記録しておく。

5頭, 鹿児島県高山町八山岳, IV. 1995 羽脱, 鮫島拓人採集・飼育。

採集者の鮫島氏によると、ホソバタブの枯材より羽脱したという。

なお、貴重な標本を恵与された鮫島拓人氏、文献を恵与下さり、いろいろ御教示いただいた佐々治寛之博士に厚く御礼申し上げます。

参考文献

- SASAJI, H., 1993. Contribution to the taxonomy of the superfamily Cucujoidea (Coleoptera) of Japan and her adjacent districts, VII. *Mem. Fac. Educ., Fukui*

Univ., Ser. II, (44), Part 2, 17-25.

(三重県久居市, 秋田勝己)

○本州初記録のヒラムネメカクシゾウムシ

ヒラムネメカクシゾウムシ *Mecistocerus japonicus* MORIMOTO et MIYAKAWA, 1985 の記載時の産地は、伊豆八丈島、九州、対島、屋久島、奄美大島であった。今回、露木繁雄氏によって本州で初めて採集されたので報告する。

1♂, 和歌山県すさみ町江須崎, 1995年5月4日, 露木繁雄採集。



この個体は雄でありながら、記載の体長（吻を除く）の最大値 10.7 mm を上回る 11.5 mm の、大きい新鮮な個体である。

採集地の江須崎は紀伊半島の南端近く、黒潮がうちよせる枯木灘海岸にあり、黒潮分布の本種がここで発見されたのは、いかにもの感がある。

貴重な標本を恵与された露木繁雄氏に、また同定確認して頂いた九州大学昆虫学教室の森本 桂教授に、撮影して頂いた宮川澄昭氏に、深謝の意を表する。
(神奈川県横浜市, 堀川正美)

○サカグチオオヒラタコメツキの腹部気門について
サカグチオオヒラタコメツキ (*Anthracalaus sakaguchii*) は、最初に沖縄本島から MIWA (1927) によって新種として記載された種であるが、その後久米島、渡嘉敷島、石垣島、西表島、与那国島などからも知られている。*Anthracalaus* 属の種は CALDER



図1 サカグチオオヒラタコメツキの腹部気門(↑印が開口部)。

& HAYEK (1992) の研究で、東南アジアからオーストラリア地域にかけて 17 種分布することが知られており、台湾にはチュウジョウコメツキ (*A. chujoi*) が分布している。本属の系統については上記の CALDER & HAYEK (1992) の中で詳しい研究がなされているが、前胸腹側板線の前端部が凹溝状をしていること、肢の爪の内側基部に剛毛を生ずることなどにより、ウバタマコメツキ類 (*Cryptalaus*) に近いと考えられている。

筆者は本種の形態の中で、腹部の気門の形が極めて特徴的であることに気づいた。一般に本科の種の気門の開口部は周辺からやや隆起した円形か楕円形をしており、縁は平滑であるが、内部の気室にはブラシ状の突起物を生じている。しかし、本種では気門の開口部とその周辺部には図示したような多数の突起状の剛毛を生じており、極めて特異な開口部を有している。このような形態については CALDER & HAYEK (1992) では言及していないが、本種(本属)の位置を考察する上での重要な手がかりの一つになるものと思われる。なお、本属の幼虫は未知であるし、成虫が灯火に飛来すること以外の生態については何も判明していないので、この面からの解明も必要である。

引用文献

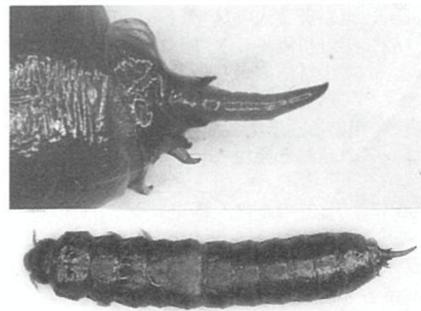
CALDER, A. A., & VON C. M. F. HAYEK, 1992. A reappraisal and revision of the genus *Anthracalaus* FAIRMAIRE (Coleoptera: Elateridae). *Ent. Scand.*, 23(1): 11-62.

MIWA, Y., 1929. The Elaterid-fauna of Loo-Choo. *Trans. nat. Hist. Soc. Formosa*, 19(103): 339-351.

(愛知県岡崎市, 大平仁夫)

○ヒメヒラタゴミムシダマシ幼虫の奇形

沖縄県国頭郡で採集されたヒメヒラタゴミムシダマシ *Catapiestus rugipennis* M. T. CHŪJŌ 終齢幼虫の1個体に写真に示す奇形が見出された。第9腹節背板の左半分は正常であるが、右半分は尾突起を含めてすべての突起を欠いている。体長 20 mm (1981年7月27日, 中島秀雄氏採集)。この属の幼虫は枯木の樹皮下に生息し体が扁平である。幼虫形態については GRAVELY (1915), GARDNER (1932) が *indicus* FAIRMAIRE について記載している。



(神奈川県横浜市, 林 長閑)

○セメノフツツハムシの北海道の記録

セメノフツツハムシ *Cryptocephalus semenovi* WEISE は、平嶋 (1989) によると本州、シベリア、朝鮮半島、中国北部に分布し、北海道はその分布に含まれていない。筆者は音別町キナシベツ海岸草原で採集された本種を検査する機会にめぐまれた。

既知の分布域から考えて北海道に分布していても不思議はないが、北海道での採集例を他に知らないため報告しておく。

記録の発表に快諾された平間裕介氏 (白糠町) に感謝する。

1 頭、北海道白糠郡音別町キナシベツ、2. IX. 1995、平間裕介採集。

参考文献

- 林 匡夫ほか, 1984. 原色日本甲虫図鑑 (IV). 保育社.
平嶋義宏監修, 1989. 日本産昆虫総目録. 九州大学農学部
昆虫学教室・日本野生生物研究センター。



(北海道河西郡, 伊藤勝彦)

◇例会報告◇

第4回例会を下記のように開催しました。講演内容は以下のとおりです。

例会終了後、会場を農大正門前の「蟹や徳兵衛」に改めて、忘年会が開催されました。各自、今年の成果や来年に向けての希望等、大いに語り、飲んで盛り上がりました…。なお、恒例の文献オークションにご協力いただきました各位にお礼を申し上げます。

日時: 1995年12月17日(日) 13:30~

場所: 東京農業大学農学科第1会議室

講演: ①野村周平「アリヅカムシの世界」

②小林信之・日下部良康「極東ロシアの自然と昆虫」

出席者数: 33名 (忘年会出席者数: 23名)

極東ロシアの自然と昆虫

小林信之・日下部良康

1995年7月2~14日、極東ロシア、コムソモルスク・ナ・アムールから北西へ60kmほどに位置するゴルヌイ (標高520m) 周辺において行われたウスバキチョウの調査に同行し、カミキリムシ科を中心とした調査を行った。調査はショウマ、マルバシモツケなどを訪花するハナカミキリ類を中心に針

葉樹衰弱木、ヤナギ類の倒木、製材所などで行った。その結果、約60種ほどのカミキリムシ類を採集できた。これらの調査状況にくわえ、移動途中のウラジオストック、科学アカデミーの見学などについても紹介、報告した。

(例会担当, 日下部良康)

◇第20回名古屋支部大会の記◇

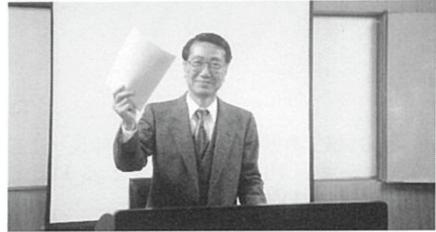
名古屋支部大会は本年3月17日、愛知県産業貿易館で行われた。年1回行われ、もう20回目になる。毎年演者をお招きして、今回は平野幸彦氏 (小田原市)、桐山 功氏 (岐阜市) のお二人にご講演をお願いした。

講演: 平野幸彦「愛知県の甲虫相を推論す」

桐山 功「岐阜県のベニボタル」

当日は総勢24名の参加で、遠来の佐々治寛之氏 (福井)、森田誠司氏 (東京)、江本健一氏 (東京) などもご来場された。

終わって近くのすし屋で懇親会がもたれ、今後の抱負と活動を話し合った。



〈出席者氏名〉秋田勝己, 岩崎博之, 岩間信太郎, 伊沢和義, 江本健一, 大塚 篤, 蟹江 昇, 川瀬英夫, 岸 隆泰, 桐山 功, 齊藤孝夫, 佐々治寛之, 佐藤正孝, 清水清市, 志水基彦, 内藤通孝, 生川展行, 野中 勝, 長谷川道明, 平野幸彦, 穂積俊文, 村松稔, 森田誠司, 吉富博之。(穂積記)

日本鞘翅学会

会費 (一カ年) 6,000円, 次号は1996年9月下旬発行予定

発行人 佐藤正孝

発行所 日本鞘翅学会 東京都新宿区百人町 3-23-1 国立科学博物館昆虫第1研究室

電話 (3364) 2311, 振替 00180-3-401793

印刷所 (株)国際文献印刷社

昆虫学研究器具は「志賀昆虫」へ

日本ではじめて出来たステンレス製有頭昆虫針00, 0, 1, 2, 3, 4, 5, 6号, 有頭ダブル針も出来ました。その他、採集、製作器具一切豊富に取り揃えております。

〒150 東京都渋谷区渋谷1丁目7-6

振替 00130-4-21129

電話 (03) 3409-6401 (ムシは一番)

FAX (03) 3409-6160

(カタログ贈呈) (株)志賀昆虫普及社